

5-10 分子科学研究所所長招聘会議

分子科学研究所 所長招聘会議は、我が国の学術の姿、研究力強化、大学及び共同研究機関の変容と変革、大学院教育戦略・国際化、科学政策・評価などについて産官学の意見・考えを基に多角的統括的に討議することを目的に、2001年からほぼ1年に1回の頻度で開催されている。日本学術会議 化学委員会、日本化学会 戦略企画委員会と分子科学研究所の共同主催として開催され、日本学術会議 化学委員会の主要活動の一つに位置づけられている。分子科学研究所は運営事務局として参画する。

ここ数年は初夏の頃に本会議を開催しており、2022年度は、「日本の人材育成を考える」というタイトルで、2020年度、2021年度に引き続き、我が国における博士人材の状況と果たす役割について議論を行った。日本の科学技術の低下を防ぐためにも優秀な博士人材の確保は喫緊の課題であるが、経済的な支援を含む様々な施策がなされてきたにも関わらず、博士課程の進学率は上がっていない。博士人材の層を厚くするためには何が必要なのか。今回は4名の講師を招き、博士課程学生支援を総括するとともに、欧米との博士人材育成の違い、社会に貢献できる博士人材の育成、日本特有の就職システムなど、どこに問題があるのかを議論した。

なお、2022年度は、COVID-19感染状況に鑑み、オンラインと現地開催のハイブリッド形式で開催し、約140名の参加者があった。

開催テーマ：「日本の人材育成を考える」

開催日時：2022年6月7日（火） 13:00～17:00

プログラム：

開会挨拶 渡辺芳人（分子科学研究所 所長）

趣旨説明 茶谷直人（大阪大学 名誉教授）

講演

「過去20年の博士支援の総括」

松尾泰樹（内閣府科学技術・イノベーション推進事務局長）

「私が体感した日本と欧州の博士人材育成の違い」

豊田良順（東北大学 助教）

「VUCAの時代の企業における博士人材の役割と期待」

高柳大（味の素株式会社）

「日本の悪しき就職活動を変えなければ博士人材育成の改革はできない」

菅裕明（東京大学 教授、日本化学会会長）」

総合討論

司会：玉田薫（九州大学 教授）

討論参加者：上記講演者及び関根千津（株式会社住化技術情報センター代表取締役社長）

主催：日本学術会議化学委員会、大学共同利用機関法人 自然科学研究機構分子科学研究所、公益社団法人 日本化学会戦略企画委員会

運営事務局：分子科学研究所（岡本裕巳 教授）